

令和元年度

中標津町総合教育会議議事録

令和元年度中標津町総合教育会議

1 日 時 令和2年3月30日（月）午前11時00分～11時55分

2 場 所 中標津町役場庁議室

3 出席者

町	長	西	村	穰
教	育	山	田	康
委	員	義	盛	幸
委	員	助	口	明
委	員	南	む	つ
委	員	青	山	幸
教	育	木	村	実
教	育	粥	川	敏
指	導	柴	田	達
指	導	本	間	義
管	理	表		健
管	理	吉	田	憲
総	務	山	宮	克
総	務	山	根	亮
学	校	吉	川	裕
学	校	林		喜
生	涯			美
学	習			子
課	長			
学	校			
給	食			
セ	ン			
タ	ー			
長				
農	業			
高	校			
事	務			
長				
書				
記				

4 欠席者 なし

5 傍聴者 なし

6 議 事

- (1) 中標津町の小中一貫教育の推進
- (2) 令和元年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果
- (3) 令和元年度標準学力調査の結果
- (4) その他

1 開 会

○管理課長

本日は、お集まりいただきましてありがとうございます。

これより、令和元年度中標津町総合教育会議を開催いたします。

まず、西村町長より、ご挨拶をお願いいたします。

○町長

皆さん、大変お忙しいところ、お集まりいただきありがとうございます。

今もお話をしておりましたが、コロナで世の中は非常に困った状態になっております。世界中で感染状況が進んでいるということで、日本も、海外の旅行者からの感染が増えてきているということでもあります。国内で発生が増えるということは、この地域にとっても、非常に危ないことが懸念されるところでございます。なんとか、水際でしっかりとした対策をしないといけないというところであります。

ちょうど東京都知事が言っておりました。密集を作らないこととか、密閉空間を作らないこととか、接触環境の場はなるべく避ける、そういったことを言っておりましたので、心掛けていきたいなと思っております。

それと、コロナ後の話をしておりましたが、大きな出来事が起きると、世の中で結構変わることがあります。その中の1つに、ネット環境で学習するというので、大きく変わる可能性がありますし、休みだからといって遊んでばかりいられる環境を、当然作っちゃいけないところでありますから、そういったところをしっかりと対応しないといけないところであるんだろうなという気がしております。

それと、我が町も少子高齢化になってまいりまして、将来的には、今年の中学校の卒業生が270人で、生まれてくる子供の数が200人を切っております。従いまして、あと10年か15年しますと、学校は建て替えの時期を迎えるところでございまして、そういった部分でいけば、将来的には2クラスの3つにするのか、3クラスの2つにするのかといったことも考えながら、いろんな政策展開をしないといけないというふうに思います。

それと、この町で暮らしていく上では、教育は非常に重要な部分でございます。教育の質のレベルをしっかりと高めるといのは、我々に課せられた大きな役目でございます。医療・教育は、住む人間にとりましては2本柱でございます。その中の1本でありますので、ぜひ活発なご意見をいただきまして、町の将来を含めて、考えていただければと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

以上でございます。

○管理課長

ありがとうございます。

それでは、議事に入らせていただきます。

中標津町総合教育会議設置要綱第4条第3項の定めにより、これより町長が議長となりまして、進めさせていただきます。

それでは、西村町長お願いいたします。

○町長

改めまして、よろしくをお願いいたします。

まずはじめに、1点目でありますけれども、中標津町小中一貫教育の推進につきまして、担当から説明をお願いいたします。

○教育指導監

先日、教育長より、教育行政方針が示されましたけれども、次年度にメインとして行われるのは、この小中一貫教育の推進になっていくと思っています。

それに併せて、1枚目に「中標津町教育」というものを、次年度に向けて新しく作らせていただきました。

下段に「合言葉」というのがあるんですけれども、この中で、小中一貫に合わせたスタートの年に相応しくなるようにということで、教育長の助言を受け、小学校と中学校の合言葉に「べんきょう」という本町の課題である部分を付け加えまして、小と中が同じ合言葉で、統一して取り組もうということにしました。「あいさつ、そうじ、べんきょう、時間を守る」という形で、次年度のスタートをするということになります。

この小中一貫教育の推進に関わっては、既に、計根別学園で、義務教育学校として成果につなげた取組を展開しています。

それに倣うような形で、中標津学園グランドデザインという2ページ目、中標津小学校、丸山小学校、中標津中学校の3校で中標津学園として、それぞれの一貫教育推進協議会を立ち上げ、各校が作成したグランドデザインを教職員で確認しています。

次の3ページ目は、旭ヶ丘学園ということで、中標津東小学校と広陵中学校の2校で、それぞれ各校長先生が作成したグランドデザインなんですけれども、令和元年の中で、一貫教育推進協議会というものを先生方で立ち上げ、このグランドデザインを基に、共通の教育目標や目指す子供像、学習習慣、生活習慣など、子供たちの発達段階に合わせた指導内容、指導項目を統一して取り組ん

でいこう、そして、9年間の子供たちの望ましい育成に協力して取り組んでいこうということを踏まえて、立ち上げております。

次年度は、こうしたそれぞれのグランドデザインに基づいて、先生方が学習指導とか生徒指導、保健関係だとか、いろいろな専門部会を立ち上げて、それぞれに9年間で子供たちの健全育成、あるいは学力の向上に向けた取組を、具体的に指導していこうとしています。

これは、私たちの教員時代もそうだったんですけれども、先生が変わって指導が変わってしまうと、子供たちが振り回されてしまう部分があります。そうした教育的指導のロスだとか、子供たちが必要としている課題は何なのかということを、職員全員が認識して取り組んでいくという、それが1番子供たちの教育に大事なことであるし、すっきりと分かりやすいことなのかなということ、この一貫教育が推進していけるように、次年度以降、検証しながら進めていこうという取組を展開しているところです。

○町長

説明が終わりましたので、今の説明に関しまして、質問、意見等をいただきたいと思います。いかがでしょう。

○義盛委員

よろしいですか。

先週ですね、うちの檀家さんから「東小と広陵中が一緒になるんだって。どういうふうな話なの。」ということ聞かれて、孫が今、東小に通ってらっしゃる方だったので、非常に関心を持たれて、それと共に不安を持って尋ねてこられたんですけれども、周知の仕方というのを、僕は、基本的には、中学校区でまとめて中1ギャップを解消したりだとか、教育に対する効果的なものを説明した上で伝えたんですけれども、周知の仕方っていうのをもう少し工夫できないものかということを思ったんです。

何か具体的な方策は検討されているでしょうか。

○学校教育課長

はい。周知方法なんですけれども、昨年、5月、それから11月のらいふまつで、学園はチームとしてやりますよということで周知させていただいて、その後、各学校から、学校便りなどでこういうふうになっていきますということで、基本的に、学校が1つになるというわけではなく、あくまでも取組の上でのチームとしての名称だということで、周知させていただいているところでした。

今、学校の方からも、年度替わりの中で、いろいろなお便りなんかも周知されておりますので、教育委員会としては、新たに具体的な周知というものは考えていないです。

○義盛委員

そう言われてみると、確かに、僕が聞いたのはおじいちゃん、おばあちゃんから尋ねられたので、保護者には周知がいつてるのかもしれないですけど、その更にひと回り離れた方たちや地域の方への周知の仕方というのは、回覧板とかで回しているらいふまっぷだけですか。

○学校教育課長

そうですね。らいふまっぷで2回というところですね。

○義盛委員

今年もそういうふうにもう少し。

○学校教育課長

そうですね。その部分は、もう少し検討していきたいなと思います。

○義盛委員

すみませんが、お願いします。

端的に説明しにくいというのがあって、計根別学園みたく、目に見えて一体型だったら非常にイメージしやすいんですけども、分離型というのはどうしてもイメージが湧きにくいようで、目に見えない形でどうも伝わりにくかったのも、もう少し続けて周知いただければなと思いました。

○町長

ありがとうございました。他にございますか。

学校のこの合言葉って、教育長がおっしゃってましたよね。

小・中学校同じにするというところは、無理がないかといったら変かもしれませんが、その辺りはどうですか。

○教育長

難しい言葉を使うより、簡単な方がいいです。

私自身、小も中も両方やっていたんですけども、やっぱり簡単にして上の子が理解できないってことはないんですよ。難しくすると小さい子が理解でき

ないし、小から中まで9年間同じものでいくので、より徹底できるかなということを考えてました。

違っているのは、小と中であれば、「いじめや仲間外れをしない心の優しい子どもになる」「生徒になる」、そこを一緒にしただけで、上も挨拶を元気に、時間を守る、中学校は、「時を守り、場を清め、礼を尽くす」だったんですけども、それよりこちらの方がよっぽど分かりがいいなと、こういうふうに変えました。

高校は、さすがにちょっと難しくしておいた方がいいかなということで、こういう形にしました。

○町長

ありがとうございました。他はどうでしょうか。よろしいですか。

それでは、この件はこれにて終了いたします。

次の案件に移りたいと思います。

続きまして、令和元年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果と令和元年度の標準学力調査の結果につきまして、説明をお願いします。

○教育指導監

毎年、小学5年生と中学2年生を対象に、全国的に行われる調査です。

本町の児童生徒の実態として、まず、体格的な部分を載せてありますが、大きく特徴的な部分では、肥満傾向の出現率が全国よりもやや高いというところがあります。これは、根室管内、それから他町でも同じような傾向がありました。逆に、都市部のお子さんの方が、バランスのいい体格を持っています。運動努力の傾向が、こういうへき地の地域には多いという傾向が言われておりました。その傾向が、中標津町でも同じように言えるという部分が、実は現れています。

それから、運動能力の部分でいきますと、小学5年生男子なんですが、上体起こし、それから長座背前屈、反復横跳び、それから20mシャトルラン、立ち幅跳び、ソフトボール投げ、この6種目で全道平均を超えております。

また、女子については、上体起こし、反復横跳び、20mシャトルラン、立ち幅跳び、ソフトボール投げの5種目で全国を上回っているんですけども、握力と50m走、この辺りが町内的には小学校の方は課題になるかなというふうに思っています。

徐々にですが、これまでの調査結果からは上昇しているという傾向が、小学校は見られました。

特に、体育推進事業が取り組まれているんですけども、その影響もあって、

体育の授業の見直しだとか、体力の子供たちの意識が、小学校で変わってきているかなと思います。

ところが、中学2年生の方では、残念ながら、全ての種目で全国を下回っておりまして。

良かった点は、唯一、保健体育の授業で、授業の中で目標が示されているという、それは評価の対象になっていたんですけども、結果的には、どの種目についても全国・全道平均に満たないというような結果があります。

よく言われるんですけども、体育系の部活動で運動に接する以外、授業でしか運動しない傾向があったり、テレビだとかゲーム機、スマートフォンといった部分に長い時間浸る傾向にあるということで、運動不足が叫ばれている部分に共通してくるかなと思っています。

そこで、学校で出来ることがないかということを考えていかなければならないということで、授業づくりの中で、子供たちの課題になっている部分、特に、前屈、50m走、これはとても低い結果になっているので、これらを意識した授業づくりということで、校長会、教頭会で、各学校でこの実態を踏まえて取り組んでほしいということを伝えております。

やっぱり大事なのは、課題意識を持つ児童生徒にしなければならない、それに向かってワクワクするような教材の投げかけ、それから、学習活動の展開、内容の準備運動とか、授業自体がどんな運動をするのかという教材研究もしっかりやっていかなければならないと思います。あとは、学校の環境づくり、これも大きな掲示物で目標を持たせるだとか、こんな目標もつとを求めていこうとか、目指そうとか、そういう環境を整えることも大事なかなと思っています。

ただ、中学生については、発達段階的に難しいところがあります。特に、女子なんかは汗を流すのを嫌います。一生懸命やるということは、下手をするといじめの対象になるというか、「何を真面目にやってんのよ」というような言い掛かり、因縁につながりかねません。

でも、そういう学級風土なり、学校風土なりを、教師が授業の中で払拭していくような、しっかりとした関わり、偽善とした授業づくりをしていくことが大事になってくるのかなと思っています。この辺りも、次年度以降、しっかり課題として受け止め、取り組んでいくようサポートしていきたいなと思います。

2点目の学力について、2月に学年ごとに行った標準学力検査の結果を図にしたものです。

まず、棒グラフが1番最初のページにあるかと思うんですけども、その中にひし形の印が棒グラフの先端にあるかと思います。これが、全国平均正答率の位置なんです。それぞれの学年、中学校、小学校なんですけれども、中学校

は数学と英語、小学校は国語と算数なのですが、小学校5年生の方はもう少しでクリアというか、全国レベルまでというところもありますが、まだまだ学年によっては足りないなというところもあります。中学校の方は、ご覧のように差が大きくなってきているのが見て取れるかなというふうに思います。この辺りが、中標津町の子供たちの学力の実態であり、課題であるということを受け止めてもらえるかなと思います。

特に、小学校、中学校の両方とも国語なんですけれども、文章を書く力に課題があったこと、小学校の算数では、数と計算・文章問題、中学校の数学では、数と式・関数などに全国との差が大きいものがありました。

同じく中学校の英語では、学年による差もあるんですけれども、聴くこと・読むこと・書くこと、それぞれ全ての分野なんですけれども、全国との差が大きい部分があったということです。

こうした改善に向けた具体的な方策として、その学年による課題もあるんですけれども、今叫ばれている授業改善、その視点をしっかりと受け止めた授業づくりをしていこうと確認しているところです。

子供たちのやる気にどう火を付けていくか、学習習慣を継続して取り組むためにどう働きかけていくか、この辺りは、子供に委ねてしまいがちな部分もあるんですけれども、やっぱり授業づくりの中で、そこに子供たち一人一人が持っているスイッチがどこにあるのかを把握する、的確につかもうとする教師の力量を高めていかなければならないと思っています。

今、まさに、学習指導要領が、小学校は今年から完全に実施、次年度から中学校が実施されるんですけれども、新しい授業づくりの視点というのは、主体的で対話的で深い学びを目指す授業づくり、あるいは、生徒指導の3つの機能と書いてあります。これは、子供たちに自己決定をさせて、周りとの指示的な学習風土の中で支え合う環境がなければ、認め合う環境がなければ、学習は成り立たないという部分なんですけれども、そういう学級づくりと授業づくりを合わせて取り組んでいくこと、それと、大事なポイントは、言語活動の充実ということを挙げています。これは、考える時も、理解する時も、どの教科にわたっても、言語能力が大事だと言われてます。この辺りをしっかりもう1回見直して、基礎となる言語の力を身に付けさせながら、それぞれの教科の学びを充実させていくこと、ここにポイントを絞って、私たちがサポート出来たらいいのと思っています。授業づくり、学級づくり、学校づくりに活かせるように、そして、子供たちの実態を向上させていきたいなと思っています。

以上です。

○町長

関連する2件の説明が終わりましたので、質問、意見等いただきたいと思います。ですが、いかがでしょうか。

私から1点。スポーツ関係で劣っているというところで、例えば、子供たちのスポーツクラブの加入率ですか、そういった見方というのはしたことはあるんですか。

○教育指導監

部活動の所属率ですか。統計的な数字はちょっと把握しきれていないんですけれども、やはり全員ではないので、自分が関係した学校では6割から7割くらいですね。低いところでは。高いところでも8割から9割くらいというようなところで、実際には、規模の小さい学校であればあるほど、比率は高くなるかなという印象はあります。

○町長

そういったことでの運動能力の相関関係みたいなものってあるんですか。

○教育指導監

学力学習状況調査っていうのがあるんですけれども、その中で、部活動とか少年団活動に加入しているお子さんと、そうでないお子さんの意識の差というのがあります。実は、運動しない子は学習時間も少ないんですよ。運動能力が高く、そういう習慣がある子は、きちんとした生活習慣ができるので、学習習慣も意外と定着している傾向があります。

その辺りは、数値的に出してる部分もあるんですけれども、全校、全学年でやっていくことではないので、印象論で申し訳ないんですが。

○町長

分析と結果はあるみたいだから、それを結びつけるような政策なり、施策というのは必要なんでしょうか。

○教育指導監

そうですね。ただ、その子が少年団とか部活動に加入する、しないは、本人の意思もあるんですけれども、家庭環境が許されない状況も場合としてはあるので、何とも言えないです。

ただ、そういうクラブとか部活動に所属しないお子さんは、授業でしか運動する機会がないです。小学校なんかは休み時間しかないですけれども、運動が苦手な子は少年団とか部活動に行かないので、負のスパイラルでどんどん運動

が苦手になっていくっていう傾向があるかなと思います。

○町長

ありがとうございます。他にございますでしょうか。

○義盛委員

すみません。1点。この体力運動能力習慣等調査と標準学力調査は、令和2年度も予定どおり実施されるものでしょうか。

○教育指導監

そうですね。

○学校教育課長

はい。時期がずれる可能性はありますけれども、実施予定ということにはなっています。

○義盛委員

学力テストは中止になりましたよね。

○学校教育課長

中止ではなく、日程を改めてということになります。

○義盛委員

例えば、こういう運動能力というのは、令和2年度の体育の授業なんかも、濃厚接触を伴わない授業というものが、多分工夫としてなされるわけですよ。基礎体力を積み重ねるような運動とかが中心になると思うんですけど、そういうふうに考えたら、非常に先生方の工夫っていうのがはっきりと結果として出てくるように思えますね。

学力については、逆に難しい部分も出ると思うんですけど、うちの町だけの問題だけではないと思うんですけども、今回の結果と来年の結果ということを、僕らは注目しなきゃいけないんじゃないのかなと思ったんですが、何か授業のマネジメントについて、特段、こちらの方から先生方にアドバイスを差し上げるということは考えていらっしゃいますかね。

○教育指導監

授業づくりで、この間示されたコロナ対策ですが、例えば、マスクをしなが

ら走ったり、ランニングなんかできないですよ。だから、全員前を向いてとか、組み合わないでとか、1つのボールを返さないでという、何をやればいいんだというような状況のひな形が、今示されています。そういうスタイルだったり、組み合わせあってグループでやらなければならない状況のものを、先送りの単元に回しましょうとか、当面は前を見て一人一人ができるような運動でやってくださいと言われていています。音楽も、合唱は控えるとか、リコーダーはやめてくださいとか、そういうようなところまできているので、本当に先が見えない中で学校がスタートすることにはなっているんですけども、本当に先生方も戸惑いながら年度初めを迎えていかなければならない状況にあるので、私は反省からこうやって踏まえてお話ししてますけれども、過去の経験が、今役に立たない状況になってきているのかなと不安な部分があります。

○義盛委員

とにかく、学校の主役は先生と児童生徒なので、その方々がなるべくスムーズに生活を送れるような方策を、引き続き、何か統一したルールができるのであれば、そのようにした方がいいと思うし、それもこちらではイメージしにくいものなんでしょうね。何か工夫はできないものかと思ったものですから。

○教育指導監

体育祭、それから中体連、それぞれの個人目標があったり、中学生は特に、目標が決まれば一生懸命やる生徒さんも多いですので、そういう目標意識、課題意識をしっかりと働きかけるということが、関わりとしては大事なかなというふうに思いますね。

○義盛委員

一人一人。

○教育指導監

そうですね。

○義盛委員

先生方が戸惑わないような進め方を、管理職の方から、また、私たちの方からもサポートして差し上げたいなと思いました。

以上です。

○町長

他にいかがでしょうか。

○南委員

運動の機能、結果について、やっぱり小学校では平均に達しているけど、中学校ではというお話をさっきされてましたけど、いろんな難しい年齢的になってくるのがあると思うんですけど、他の町の方から聞いたんですが、やっぱり中学校になったらだめと話を聞くんですね。

それで、うちの町は、管内の中ではどのくらいの位置にいるんでしょうか。

○教育指導監

運動能力の方ですか。管内の中でも、中学生は低いです。残念ながら。ただ、体育の先生だけが、その場で検査というか、調査するというような流れがあるんですけども、やっぱり成果の上がっている学校では、担任の先生とか他の教科の先生方も、その検査の時に関わって、声掛けしてあげたりすると、目の色を変えて子供たちって頑張るんですよ。特に、中学生なんかは、そういう関わりが大事な部分なので、本来であれば、調査のための調査ってやるのではなくて、「去年の目標・記録はこうだった。じゃあ今年はどのくらい伸ばす」という、そういう自分の成長に合わせて、ちゃんと目標を設定させるような関わり方とかをしていくのが、丁寧に関わっていくのが大事なかなというふうに思っています。

ただ一方で、発達段階の中で一生懸命やるっていうのが、なかなか必死になる瞬間を嫌うというか、そういう発達段階ではあるので、その辺にきちんと関わってあげられるような集団づくりとか個人づくりをしていかないとダメかなと思っています。

○町長

他どうぞ。よろしいですか。

一応、議題につきましては、これで終了となります。議案出すものはございますか。

○学校教育課長

よろしいですか。その他で2点、報告させていただきたいと思います。

あとから別紙で配布させていただきました、両面印刷のものが2枚あると思うんですけども、計根別学園のタブレット使用状況の報告書、それから、新型コロナウイルス感染症の教育概要となっており、それぞれ簡単に説明させていただきたいと思います。

まず、計根別学園のタブレット使用状況報告書ですけれども、昨年末に、計根別学園で先行してタブレット 19 台を導入させていただきました。その活用状況について、計根別学園から報告がありましたので、説明させていただきます。

まず、1 つ目ですが、実際に使用したのは 2 ヶ月弱でしたけれども、この間の実践例等について、報告書にまとめていただいております。

2 つ目、今年度の活用ということで、コンピュータ室との併用ということで記載があります。パソコンは、各教科や総合的な学習時間のまとめで使用されておりますけれども、タブレットは、パソコン教室から持ち出して使用することから、今あるパソコン教室のデスクトップ型のものと合わせてタブレットということで、それぞれ 2 学年で利用できる環境があったことから、効率的な活用につながったとされております。

次に、コンピュータ室以外での具体的な活用ということで、調べ学習をする際に、書籍とインターネットを併用する場合があるということで、持ち運びできるということから、図書室に持って行って、子供たちがその場で、本とインターネットを活用しながら調べることができたということ、また、宿泊的行事のしおりづくりでは、調べることに、それから、自分の教室でしおりを作成する作業というのが、同時に自分の教室でできるようになったということから、活動場所が 1 ヶ所になって、それに就く先生も 1 人で、担任の先生による指導で行うことが可能になったということで、記載されております。

次に、写真動画を活かした活用ということで、4 年生では、植物の 1 年の成長を観察する中で、タブレットで写真を撮りながら 1 年間の成長をまとめることができた。体育では、器械体操で、自分の体の使い方、動き方を動画で撮ることができたので、技の向上につながったということになっております。

次のページですが、アプリを活用してということで、無料の教育用アプリもいろいろ出ておりますけれども、そういったものも活用しながら、計根別では、曲作りに取り組んだりということをしたようです。来年度から、プログラミング教育が始まりますので、それ以外にも、有用な教育用無料アプリの導入を検討したいと考えているようです。

次年度以降の活用についてですが、プログラミング教育が始まる中で、各教科の中でプログラミング教育がされるわけですけれども、これまで以上に、タブレットの使用頻度は多くなりますし、小学校では、来年度から教科書が新しくなる中で、QR コードの掲載もあります。それをタブレットで写すことで、それに関わる動画を閲覧するというようなこともできることから、いろいろと活用の幅が広がるということになっております。

最後に、先行導入によって、各学年でいろいろと使っている中で、19 台毎日のように使っていたということで、今後、プログラミング教育推進、タブレッ

ト活用の必要性も改めて感じて、今年度2ヶ月弱ではありましたが、大変充実した学習が展開できたということで、報告書をいただいております。

2点目です。新型コロナウイルス感染症対策にかかる経過概要ということで、先週の金曜日時点のものを、簡単にまとめております。1番上、2月26日からの経過でありますけれども、知事からの要請を受けて、2月27日から1週間の臨休の要請で対応するという流れから、2日後に、文科省から春休みまでの要請がありまして、道としても、また町としても、それに対応するというので、結果的には、2月27日から3月24日までの通算27日間の休業となっております。実際に、学校のある平日では、18日間となっております。

その後、高校の卒業式は早かったですので、その辺の対応についての通知ですとか、今度は、分散登校に関わる対応などもありました。

それから、卒業式の対応ということで、実際に、全道の教育長会議、テレビ会議でありましたが、各振興局でのテレビ会議になりましたけれども、3月2日、4日、26日と3回開催されております。

それに伴って、町内でも、町立学校の対応を検討するために、3月2日から先週の金曜日3月27日まで5回の臨時校長会議を開きながら、学校とも今まで対応を進めてきたところです。

裏面の2つ目の確認になりますけれども、分散登校につきましては、町内の学校では各校2回をめぐりに実施しております。その中で、卒業式も分散登校に合わせて実施しておりまして、保護者なしの対応ということで進めてきたところです。

それから、最後の今後の予定になりますけれども、始業式は、ここに記載の日程で予定しておりますが、実施の方法としましては、小学校は、校内放送で各クラスで子供たちが聞くということになっております。中学校については、学年ごとに分散し、小規模で体育館で行うということになっております。

入学式ですけれども、記載の日程で実施しますけれども、小学校、中学校、また農業高校につきましても、保護者の参加を可能としていますけれども、学級ごとの実施ということになります。ですので、中標津中学校では、4回の入学式の実施ということになりますが、これは、卒業式と同様に、時間短縮の工夫をしながら、式の入替えの時には、当然、換気や消毒作業の実施、それから、通常であれば式が終わった後、各教室に子供たち、保護者というふうに入るんですけれども、一緒に教室に入らないように、子供たちは子供たち、保護者は別の部屋で待機というようなことで、各学校でも感染予防に努めた中での対応を検討していただいているということです。

以上が、臨休が始まってから先週金曜日までの状況ということで、報告とさせていただきます。以上です。

○町長

今の件につきまして、何かご意見、ご質問ございますか。
タブレットの報告というのは定期的にやるんですか

○学校教育課長

いいえ。今回、昨年の11月末に導入されて2ヶ月くらいのもので、まず、町内先行して導入させていただいたところから、その使用状況については、年度末に報告をもらうということにしているので、まず報告ということで。

○町長

この後、報告ということですか。

○学校教育課長

そうですね。まず、今現在、タブレットがあるのは計根別ですので、定期的にもらうかどうか、具体的にはまだ決めていませんけれども、分析は必要だと思いますので、学園の方とも話し合いたいと思います。

○町長

よろしいですか。

○南委員

他の学校には、これからタブレットが導入されるんでしょうかね。

○町長

先行導入ということですよ。それは、予算と相談しながらなんですけれども、さっきのコロナのお話じゃないですけども、多分そういうものがもっともっと見直されてくるという感じはします。

○学校教育課長

令和2年度で予算がついている部分としては、小学校のコンピュータ教室のパソコンの更新のタイミングになっています。今は、デスクトップが配置されておりますけれども、それについては、折りたたんでタブレットにもなるキーボードも付いているというような小さいタイプのものを考えておりますので、各学校では、持ち運んで、コンピュータ教室に限らず、外でも使える環境は整えたいと思っております。

また、国の方で盛んに言っておりますG I G Aスクール構想で、一人一台に向けてというところですが、その補助の活用については、当町の状況も踏まえながら、改めてこういった形がベストなのかというのを検討していきたいと考えております。

○町長

他ございますか。よろしいですか。

じゃあ私から最後ですね。挨拶の中で言っておりましたけれども、やっぱりいい町を作っていこうというところで、教育は大切な部分でありますし、ご存じだと思いますけれども、中学生が卒業して我が町を離れる人が40人くらいまして、いわゆる進学で、親が子供の可能性を追求するというような、格好良く言えばそういうことになるんですけど、見方によっては、人材と経済の両方が外に出て行ってしまうという流失だと思えなくもない、そういうところでは、中学から高校まで通した中標津スタイル的な教育の在り方というのをしっかりと作り上げなくてはいけないと、将来的に向けて重要な時期だと思っておりますし、そういった部分では、会議を介しながらいい教育をしっかりと作って、そして、できれば中標津でも将来を担う人材を作っていくようなことをしなくてはいけないと思っているところでございます。なかなか時間は掛かりますし、簡単なことではありませんけれども、将来に向けてですね、そういった政策も含めて、作り上げていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

会議にあたりまして、私からは以上になります。

最後に教育長から挨拶です。

○教育長

今、町長からお話がありました。

町長を先頭にして、皆さんで中標津町の教育の発展充実のために、今後とも力を合わせていけるようにと考えております。

本日はお疲れ様でした。